

令和7年度

熊本県高校魅力化コンソーシアム状況報告

令和8年3月

牛深高等学校を核とした

地域の未来づくり コンソーシアム

～ 地域と創る、選ばれる学校づくり ～

牛深高等学校を核とした地域の未来づくりコンソーシアム事務局

熊本県立牛深高等学校

📍 熊本県天草市久玉町1216-5 📞 0969-73-3105

🏫 学科・系列（総合学科）

生徒一人ひとりの興味・関心に応じた科目選択が可能な「単位制」を採用。

文理総合系列

情報ビジネス系列

専門教養系列

募集定員

120名

課程

全日制

💡 学びの特徴・強み

- **自分だけの時間割**：個々の進路に合わせた柔軟なカリキュラム設計
- **探究活動の重視**：「産業社会と人間」等を通じた課題解決学習
- **地域連携**：商店街との連携イベントや地域課題解決PBL
- **部活動の実績**：郷土芸能部が全国高校総文祭で優秀賞受賞

⚠️ 現状の課題（存続リスク）

生徒数の減少

2020年 159人 → 2025年 97人（▲62人）

5年間で約40%減

地元進学率の低下

地元中からの進学者が減少し、他地域へ流出。

約3割に留まる

🤝 コンソーシアムへの期待

学校単独での解決が困難な課題に対し、**地域と一体となった支援体制**を構築。

「地域に愛され、選ばれる学校」へ

コンソーシアムによる魅力化推進が不可欠。

天草市の概要



人口

約7万人

2025年推計（ピーク時10万人超から減少）



面積

683.87 km²

熊本県内で最大（東京23区の約1.1倍）



人口減少率（20-30年）※推計

▲18.2%

牛深地区は特に減少顕著（▲14.1%（20年→25年））

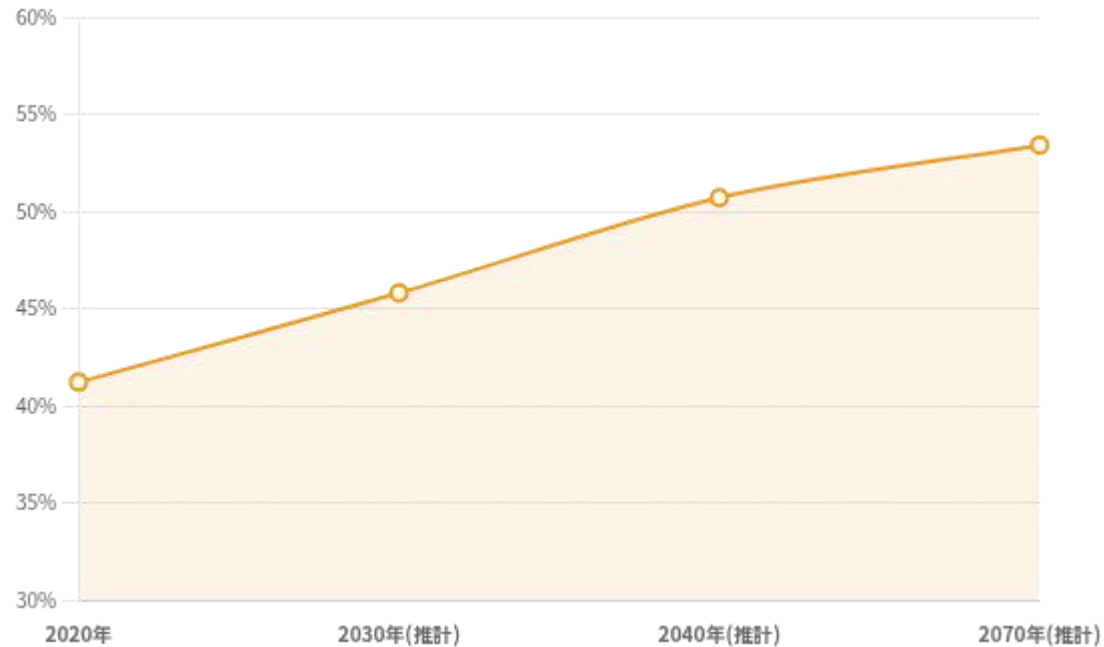


高齢化率（2040年）

50.7%

2人に1人が高齢者の社会へ（推計）

高齢化率の推移予測



地域特性と課題

地理的条件

大小120余りの島々からなる多島海。鉄道はなく、移動は車・バス・船・飛行機に依存。

歴史・文化

世界文化遺産「崎津集落」をはじめとする潜伏キリシタン関連遺産など、独自の歴史文化を有する。

喫緊の課題

人口減少が地域の教育環境や経済に深刻な影響。特に牛深・河浦地区の減少率が高く、対策が急務。

コンソーシアムの役割

広大な市域の中で人口減少が進む中、高校を核とした地域づくりが「持続可能な 地方創生」の鍵となる。

コアチームの体制（事務局メンバー）



事務局

連絡調整・実務・全体マネジメント



魅力化コーディネーター

牛深まちづくり協議会

事務局長

牛深まちづくり協議会

事務局

牛深まちづくり協議会

事務局

天草市教育総務課

(係長・担当職員)

牛深高校

教頭

牛深高校

事務長

天草市政策企画課

(係長・担当職員)

オブザーバー

熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課高校魅力化推進室、一般社団法人地域・教育魅力化プラットフォーム

コンソーシアム設立の目的と背景

🕒 設立の背景・課題

👤 1. 人口減少・少子高齢化の進行

天草市全体で人口減少が加速し、特に牛深・河浦地区では減少率が顕著（▲14%以上）。

地域の教育環境や地域経済への深刻な影響

地域の担い手不足による地域コミュニティの衰退懸念

🏫 2. 学校の小規模化と存続リスク

牛深高校の生徒数が5年間で約40%減少し、定員確保が困難な状況。

学校運営への影響と、教育環境の維持への懸念

一人ひとりへの支援は手厚いが、集団活動等の制約も発生

👥 3. 連携の属人化と限界

従来の連携は個人の熱意に依存しており、組織的・継続的な仕組みが不足。

人事異動等で取組が途切れるリスク（継続性の課題）

学校と地域の窓口が不明確で、連携が進みにくい現状

🎯 設立の目的

MISSION

教育の質向上 × 地域活性化

「社会に開かれた教育課程の実現」

（高校側の視点）

×

「高校を核とした地方創生」

（市側の視点）

コンソーシアムが目指す同時達成

【学校】

地域資源を活用した
探究的な学びの充実

【地域】

若者の定着・還流と
地域課題の解決・地域の活性化

🔄 持続可能な協働基盤の構築

高校と市町村が対等な立場で、組織として継続的に連携する仕組み

OUR VISION

「この地域に託したら人が育つ」と信頼される教育環境

～ 高校を核として、地域全体を次世代育成の「学びの場」へ ～

コンソーシアム規約に基づく4つの事業

1

人材育成基盤の構築

地域全体を学びの場とし、地域住民や企業が参画する「人が育つ地域づくり」の取組。

2

初等中等教育との連携

幼保小中高の連携協働による一貫した人材育成と、地域への愛着を育む取組。

3

牛深高等学校の魅力化

地域課題解決学習等の特色ある教育プログラムの開発と、学校存続・発展に向けた取組。

4

情報発信・生徒募集

高校および地域の教育力を一体的に発信し、地域のファンを増やすプロモーションの取組。

実現に向けた重点アクション



探究の深化

地域課題解決プロジェクトを通じ、生徒が主体的に学ぶ環境を整備。地域資源を教材化し、実社会と連動した深い学びを実現。



初等中等との連携

幼保小中高の定期的な情報共有と協議の場を設け、校種を越えた、授業交流、合同行事、合同地域学習などの教育活動を工夫・展開する。



情報発信強化

高校と地域の教育力を一体的に発信。SNSやメディアを活用し、地域内外へ「選ばれる地域・学校」としての魅力を浸透。

高校魅力化コンソーシアムの組織体制

役員会

構成団体の代表者で構成
(方針・計画・予算の審議・承認)

事務局

運営主体：牛深高校・天草市

牛深まちづくり協議会へ委託

連携・協働 推進部会

- 地域人材講師の招聘
- 探究活動の支援・調整
- スキューバダイビング体験
など牛深の特徴を活かした
体験活動

魅力発信・ プロモーション部会

- SNSによる情報発信
- ラジオ番組制作事業
- 長島町通学者支援事業

牛深高校 魅力化部会

- 探究活動の推進
- 単位制普通総合学科の
特徴を活かしたカリキュラム
構築
- アンケート
- ワークショップ

初等中等 教育部会

- 地元中学生対象オープン
スクール
- 中高合同マラソン大会

令和7年度の取組① コアチーム（事務局）の体制づくり

体制構築とメンバー選定

コアメンバーの決定

学校（教頭・事務長）、市（政策企画課・支所）、市教育委員会、地域団体（まちづくり協議会）からキーマンを選定し、意思決定の迅速化を図る。

役割

コンソーシアム構築までは、発足に向けての活動等を行う。
構築後は、コンソーシアム事務局として、各部会等の調整を含め実施する。

運営の仕組み化

定例会議の設計

月1回以上の定期開催をルール化。
定期的に会議を開催することで、意思の統一を図る。

情報共有基盤の整備



少人数による会議

コアチームについては、常に意思疎通を図れるよう、自治体および高校で設置。



コミュニケーション

対面による会議、オンラインによる会議、メールおよびチャットなど各種ツールを活用しながら、緊密な情報交換を行い、意思疎通を図った。

今後のポイント：

「誰が」「いつまでに」「何をするか」
タスクの可視化により、実行力を高める体制へ。

令和7年度の取組① コアチーム（事務局）の体制づくり

主な課題

- 目的の明確化・共通化およびゴールに至るまでのプロセスのすり合わせ
- コーディネーター人材の確保と育成
- 会議における共通理解促進のための資料作成事務量の増加（属人化）

得られた成果

定例会議の実施により事業を着実に推進。学校と行政（支所）が頻りに顔を合わせることで信頼関係が醸成され、多角的な視点での検討が可能となった。

課題に対する具体的な取組

- 実務担当者会議を定例化して実施
- 会議資料による共通理解の促進

サポート人材の確保

コーディネーターを支える副担当や実務補佐の人員確保が急務。

 残された課題

探究活動の推進

地域課題解決型学習を深化させ、生徒の主体性と地域貢献意識を育む。

 令和8年度に向けた展望

令和7年度の取組②：コンソーシアムの体制づくり

組織基盤の構築プロセス

持続可能な運営を目指し、規則と役割分担を明確化するプロセスを推進。

📄 規約案の策定と承認

① 目的と事業の明確化

「地域全体で人を育てる」目的と、そのための具体的事業（人材育成・魅力化・情報発信）を規約に明記。

② 役員会運営の規定

構成団体の代表者による意思決定機関としての権限と運営ルールを設定。

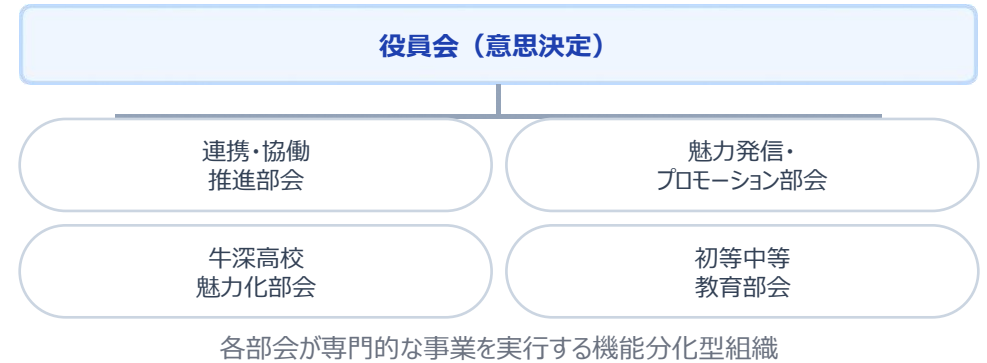
③ 事務局機能の定義

連絡調整を行う事務局の所在と役割を明文化（牛深高校・天草市・まちづくり協議会）。

✔️ 規約のポイント

「牛深高等学校を核とした地域の未来づくりコンソーシアム」として、教育機関だけでなく、まちづくり団体、企業、地域住民の参画を促進する包括的な枠組みを設計。

👥 組織体制図の整備



👥 委員の選定とバランス

地域・分野のバランスを考慮し、多様なステークホルダーを巻き込む体制を構築。

学校関係：校長、育友会、同窓会

行政機関：天草市（牛深支所・教育委員会）

地域団体：牛深・河浦まちづくり協議会、商工会議所

産官学連携 地域網羅 継続性重視

令和7年度の取組②：コンソーシアムの体制づくり

主な課題

- 目的の明確化とステークホルダー間の合意形成
- ゴールに至るまでのプロセスのすり合わせ
- 学校評議員会やCOREハイスクール等、既存委員会との整理・連携

得られた成果

R8.3.11 コンソーシアム設立


牛深高等学校を核とした地域の未来づくりコンソーシアム

課題に対する具体的な取組

- コンソーシアム規約策定プロセスを通じた共通理解の醸成
- コンソーシアムに4部会を設立

定例会の運用定着

コンソーシアム定例会議の継続開催と、迅速な実務実施体制の確立。

 残された課題

部会の活性化

設置した4つの部会を活用し、主体的な事業推進を図る。

 令和8年度に向けた展望

令和7年度の取組③ 実施事業（抜粋）

牛深高校探究活動補助

連携・協働

大学教員の専門的指導による合宿形式ワークショップを実施。
生徒が地域課題の発見・分析・解決策提案までを主体的に行う探究活動を支援し、質的向上を図った。

 通年  大学連携・合宿WS

総合学科発表会

連携・協働

1年間の学習成果や探究活動の成果を地域住民や中学生に向けて発表。
生徒のプレゼンテーション能力向上を図るとともに、地域と連携した学びの成果を可視化した。

 12月24日  学習成果発表

中高合同マラソン大会

初等中等

牛深高校・牛深中・牛深東中の生徒計300名が参加。
スポーツを通じた交流により、高校の活気ある雰囲気
中学生に直接伝え、地域の一体感を醸成した。

 12月19日  300名参加

長島町通学者支援事業

魅力発信

長島町からの通学者向け支援制度（フェリー補助等）
周知のため、広報チラシを作成し中学校訪問を実施。
安心して進学できる環境をアピールし志願者確保に努めた。

 5月～  チラシ・中学訪問

Instagram情報発信

魅力発信

牛深高校の日常やイベント情報をSNSでリアルタイムに
発信。写真や動画を活用し、地域内外へ高校の魅力
を視覚的に訴求することで認知度向上を図った。

 通年  #SNS広報

ワークショップ 「牛深高校について話しましょう」

連携・協働

地元の子どもたちが牛深高校を選ばない理由を深掘りする
ため、ステークホルダーを集めた対話の場を設定。「なぜ
選ばれないのか」「どうすれば行きたくなるか」について、
生徒・保護者・地域住民が共に現状を見つめ直し、地域
の未来につながる可能性を探った。

 12月13日  計32名参加(中学生・保護者等)

実践事例① ワークショップ「牛深高校について話しましょう」ー 概要 ー



📷 多様な参加者が対等な立場で対話するワールドカフェ

🎯 背景・取組の概要

生徒数減少という課題に対し、地元子どもたちが牛深高校を選ばない理由を深掘りするため、ステークホルダーを集めた対話の場を設定しました。

「なぜ選べないのか」「どうすれば行きたくなるか」について、生徒・保護者・地域住民が共に現状を見つめ直し、地域の未来につながる可能性を探りました。

📅 開催概要

🕒 日時
令和7年12月13日（土）
14:00 ~ 16:00

📍 場所
MORIMONNLAND 牛深
(牛深支所 3階)

👥 参加者（計32名）

中学生 保護者 牛深高校生 教職員

地域外

🗨️ 開催方式

ワールドカフェ方式（席替えを行いながら対話を深める）

👤 コーディネーターの関わり

👤 魅力化コーディネーター

- ✔️ ワークショップ全体の企画・論点設計
- ✔️ 当日のファシリテーション（心理的安全性の確保）
- ✔️ 対話内容の記録化と分析（KJ法による整理）

👎 行きたくない理由 (Negative)

情報不足

人間関係の固定化

部活の選択肢

- 高校の魅力や実態が伝わっていない（知らない）
- 小中からの持ち上がりで人間関係がリセットできない
- 将来のキャリアパスや進学実績への不安

👍 行きたい理由 (Positive)

郷土芸能部

通学負担少

少人数指導

- 地域文化に根ざした特色ある部活動
- 先生との距離が近く手厚い指導が受けられる
- 地元で通える安心感と経済的メリット

💡 理想の学校像

- 選択肢の拡充：授業・修学旅行・給食・制服など「選べる」制度
- 専門性の強化：IT・eスポーツ・水産・ダイビング等独自カリキュラム

→ **Next Actions**
次のステップ

既存の「選べること」の可視化と
発信 / アンケートによる需要
把握 / 小規模トライアル実施

💡 得られた知見・ノウハウ

❗ 最大の課題は「知らない」こと

ワークショップを通じて、生徒数減少の背景には、まず学校の魅力や実態が地域や子供たちに十分に伝わっていない現状があることが確認された。「行きたくない」以前に「知らない」層が多いことが判明。

💬 ワールドカフェの効果

中学生・保護者・教員・地域住民が混成チームで対話することで、立場の違う視点からの率直な意見（本音）が引き出された。「対話」の場自体が、地域が学校に関心を持つきっかけとなった。

👤 ファシリテーターの重要性

外部（まちづくり協議会）のコーディネーターが進行することで、学校側だけでは出にくい批判的な意見も建設的に扱うことができた。否定的な意見を「改善への要望」へと昇華させる論点設計が重要。

📝 施策化への勘所と次回改善

📣 情報発信の強化

SNS・動画・体験告知など、まずは「知ってもらう」ための発信を徹底的に行う。

🌊 体験の創出

海や地域資源を活かした体験活動など、牛深ならではの魅力を体感できる機会を作る。

🍴 専門学科・給食の検討

要望の多かった専門学科や給食については、実現可能性を含めて段階的に検討を進める。

📌 次回ワークショップの改善

事前周知の質を向上させるとともに、定量アンケート等でより広範な傾向を把握する。

令和7年度の取組③ 実施事業（抜粋）

☰ 主な課題

- 生徒・保護者・地域の現状把握が十分でない（ニーズの不透明さ）
- 高校の魅力や活動内容が十分に発信・認知されていない
- 小中学校で実施されている地域連携活動が高校では展開不足

☰ 得られた成果

【課題の可視化】

ワークショップやアンケート調査を通じて、現状の理解不足やニーズのギャップを可視化。具体的な課題が明確になり、次なる一手が見えた。

☰ 課題に対する具体的な取組

- 令和7年度に初めてワークショップおよびアンケート調査を実施
- 中高合同マラソン大会の実施

🚩 残された課題

⌚ 魅力浸透の時間軸

発信した魅力が地域に伝わり、意識変容につながるまでの期間を見極める必要がある。

🚩 令和8年度に向けた展望

📣 魅力発信の重点化

「知らない」層へのアプローチ強化のため、SNSや広報活動を加速させる。

令和7年度の取組④ リソース（ヒト・モノ・カネ）獲得

ヒト（人的資源）

魅力化コーディネーターの配置

コーディネーター（平山氏）による学校と地域の接続、プロジェクト推進。

地域人材講師の招聘

「産業社会と人間」や探究学習における、地元企業人や専門家の参画。

ステークホルダー連携

牛深まちづくり協議会、育友会、同窓会、商工会議所との協働体制。

モノ（物的資源・環境）

教育環境・機材の整備

探究活動に必要なICT機器や、ドローン講習会等の実習機材の確保。

活動拠点の活用

牛深高校および天草市牛深支所（まちづくり協議会）を活動・事務局拠点として活用。

カネ（財源確保）

天草市補正予算（R7.6月）

500 万円

※事業推進のための肉付け予算として計上

県 熊本県補助金の活用

コンソーシアム構築事業費の**1/2**を補助。
コーディネーター人件費等の基盤を支援。

他 外部資金の獲得

ふるさと納税や各種助成金の活用検討。

🔄 持続可能な運営体制の構築

令和7年度の取組④ リソース（ヒト・モノ・カネ）獲得

主な課題

- コーディネーター（プレーヤー/サポーター）の複数確保・増員
- 連携事業等に要する経費の安定的確保
- 効果的な事業への「選択と集中」の判断

得られた成果

現時点では具体的な成果には至っていないが、各方面への働きかけを強化し、次年度に向けた継続的なヒト・モノ・カネ獲得の基盤づくりを進めている。

課題に対する具体的な取組

- 行政（天草市・県）への予算措置の働きかけ強化

自走化リソース

一過性で終わらせないための、継続的なヒト・モノ・カネの確保。

 残された課題

行政支援の強化

行政における支援体制も充実させ、官民一体で取り組む。

 令和8年度に向けた展望

コーディネーターの業務実態と成果報告

🏠 実際の活動内容（実態）

🏠 高校内活動

- 探究学習支援
- 各種会議
- 生徒との珈琲ブレンドづくり
- 広報活動（SNS発信）
- 講演会
- 同窓会に対する説明

📍 地域・対外活動

- みつばちラジオ方針策定
- みつばちラジオ番組制作支援
- 進出企業との連携
- まちづくり協議会 定例会・情報共有
- 企業訪問・連携協議
- 地域イベント参加・取材
- 行政（市役所・教育委員会）協議

📌 業務分類

高校におけるコーディネート機能
高校での会議、授業支援、同窓会説明など 50%

協働体制におけるコーディネート機能
行政協議、情報共有、組織基盤構築 30%

地域におけるコーディネート機能
地域資源発掘、企業連携、ラジオ番組制作支援 20%

📌 活動実態からの気づき・成果（想定外の広がり）

当初の想定以上に「情報発信（SNS・ラジオ等）」や「地域資源の新規発掘」に時間を要しているが、着実に地域住民の認知度が向上。高校生と地域をつなぐ接点が拡大している。

🗣️ メディア発信強化

👥 地域認知度向上

令和7年度の取組経過

第1四半期 (4-6月)

第2四半期 (7-9月)

第3四半期 (10-12月)

第4四半期 (1-3月)

1

始動期

6月

予算計上・キックオフ

- ・天草市補正予算計上 (500万円)
- ・第1回情報交換会 (県内6地域)

3

10月 - 12月

組織基盤の検討・連携事業実施

- ・連携事業の実施
- ・コアチーム会議 (複数回)

2

7月 - 9月

体制構築・申請

- ・内部会議の実施
- ・コアチーム会議 (複数回)
- ・熊本県補助金申請・決定

設立

1月 - 3月

組織基盤の確立・研修

- ・コンソーシアム設立
- ・規約および組織体制の構築
- ・第1回役員会開催
- ・コアチーム会議 (複数回)
- ・先進地研修の実施

4

令和8年度の取組予定

※令和8年度のスケジュールは未定（事業計画案のみ記載）

+ 牛深高校探究活動補助

連携・協働

大学教員の指導のもと、合宿形式によるワークショップや地域調査を実施。生徒が地域課題の発見・分析・解決策提案までを主体的に行う活動を支援。

未定 全生徒

総合学科発表会

連携・協働

1年間の学習成果や探究活動の成果を地域住民や中学生に向けて発表する場。プレゼンテーション能力の向上と地域への還元を図る。

未定 牛深総合センター

🏠 地元中2対象 オープンスクール

初等中等

中学2年生を対象に、早期の高校体験を実施。授業体験や部活動見学を通じて高校生活のイメージを具体化させ、地元進学への意欲を高める。

未定 中学2年生

📣 情報発信・プロモーション

魅力発信

SNS運用、ラジオ番組制作（生徒出演）、PV作成など、多様な媒体を活用して高校と地域の魅力を内外に発信。地域のファンを増やす。

未定 #SNS/ラジオ/動画

🔄 地域共創社会の 実現に向けた取組

魅力化

地域住民や企業と連携し、地域資源を活用した特色ある教育プログラムを開発。地域全体を学びのフィールドとする「人が育つ地域づくり」を推進。







未定 地域全体

👥 各種連携イベント・研修

初等中等

公務機関合同説明会、小中高PTA合同研修会、中高合同マラソン大会など、学校種や組織の枠を超えた交流・連携事業を実施。

未定 多機関連携

 項目	 学校側の視点	 市町村側の視点
 <p>課題と 感じていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高校進学を控えた小中学生を有する家庭に対して、あらゆる進路希望に対しても牛深高校で対応可能であることを周知することが必要。そのために、いかに効果的に牛深高校をプロモーションするかが課題。 県立高等学校あり方検討会の提言内容について、牛深・河浦地域の住民に周知することが必要。そのうえで、今後の地域づくりにおける「牛深高校」の存在価値についてしっかり考えてもらう機会をできるだけ多く、そして効果的に設けることが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアムの形はできたことから、今後はいかに実効性を持たせていくかが課題。地域を巻き込む作業を行い、いかに地域に必要とされていくか、自分事としてとらえてもらえるようにできるか。 また、地元の進学率を上げていくことは当面の目標となるが、今後存続させていくためにはさらなる大きな目標の設定が必要と考えており、内容の検討・精査が必要。
 <p>次年度への 目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高校教育活動のさらなる充実と魅力向上を図る。 牛深高校の教育活動の一層の周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> まずはコンソーシアムの活動が確立できるよう取り組む。 さらなる将来像については関係者の意見を取りまとめながら、地域として進むべき方向性を加味し検討していく。
 <p>具体的に 取り組みたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 牛深ならではの教育活動（海洋リテラシー教育など）の工夫と、教育活動に関与・協力してもらえる地域人材等の開拓。 牛深・河浦地域の幼保小中高の交流機会の確保とプロモーション活動の工夫・実施。 	<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアム事業の着実な実施。 他校へ横展開できる事例の創出。